



1. 会誌発刊の辞

2. 自己紹介と専門分野

- ・ 会長 東山セツ子(ひがしやま せつこ) (応用理学)
- ・ 幹事長(総務) 藤田和夫(ふじた かずお) (電気電子)
- ・ 幹事(総務) 大崎榮一(おおさき えいいち) (電気電子)
- ・ 幹事(会計) 窪倉隆(くぼくら たかし) (建設)
- ・ 幹事(会計) 大久保暁一(おおくぼ としかず) (電気電子)
- ・ 幹事(渉外・広報・企画) 宮田滋一(みやた しげかず) (電気電子)
- ・ 幹事(渉外・広報・企画) 桶谷裕(おけや ゆたか) (電気電子)
- ・ 幹事(渉外・広報・企画) 小田康雄(おだ やすお) (電気電子)
- ・ 幹事(渉外・広報・企画) 酒井重嘉(さかい かずよし) (電気電子)
- ・ 監事 有澤良一(ありさわ りょういち) (建設)

会誌発刊の辞

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

おかげさまで明治大学技術士会は、昨年10月22日に設立総会を開催し、新たな一步を踏み出しました。設立総会後に順調に活動を推進することができましたのは、ひとえに皆様方の温かいご支援とご指導の賜と、心より厚く感謝申し上げます。

明治大学技術士は昨年3月の日本技術士会入会名簿調査では107名でした。また技術士登録しても日本技術士会に入会されていない方々(入会率約17%)についてはご案内できておらず、本会の入会員数総数は現在55名です。まだ明治大学技術士として活躍されている方々が多数存在していると思いますが是非入会して活動の場を広げて頂きたいと思っています。

云うまでもなく、入会員あつての明治大学技術士会ですから、会員及び入会希望者からのご要望や意見があり、それに応えるべく、幹事を交えて議論を交わすことが会の存在そのものと発展にとって重要です。

要望や意見のみならず、会員にお知らせしたいニュースなどの開催広報、等々もお寄せ頂ければ、会誌及びホームページに掲載できるようになります。

明治大学技術士会での出会いが、人を動かし、人を変えることをお互いに実感していると思います。折々に取り上げられ話題や、それぞれに出会いのよろこびが体感できる会を目指すことを祈念し第1号発行の挨拶といたします。

今回は明治大学技術士会の会長はじめ幹事一同の「自己紹介と専門分野」について編集しましたが、今後はより充実した内容になるよう努力したいと思います。

どうか今後とも会員皆様の指導ご協力を宜しくお願い致します。

2017年3月5日

明治大学技術士会 幹事長 藤田和夫

自己紹介と専門分野

明大技術士会会長 ^{ひがしやませつこ} 東山セツ子 (応用理学)

日本技術士会名誉会員

東山セツ子自己紹介



1. はじめに

2016年10月22日、明治大学技術士会設立総会が開かれ、会長に就任いたしました。堅固な柱である8人の幹事に支えられ、当技術士会の成長のために精一杯努力していきたいと考えております。

当会は明治大学卒業生の中、技術士の国際資格を持つ有資格者により構成される任意団体であります。現在の会員数は数十名という小規模ではありますが、徐々にこの国家資格を取得する卒業生が増加することを期待し、会員増につなげていきたいと思っております。

一方、各技術士におきましては、各々の分野において技術水準向上のけん引力となるよう、さらに各個人の技術力向上のために努力することを願っております。

2. 自己紹介

2.1 下記に私の活動の略歴を簡単に紹介します。

2.2 1936.10 東京生まれ

2.3 1960.3 お茶の水女子大学文・教育学部地理学科卒業

2.4 1960.4～1962.3 (学)成徳学園教諭(社会科)

2.5 1962.3 明治大学大学院修士課程文学研究科地理学専攻修了

2.6 1967.4 お茶の水女子大学助手(地理)・同校講師

法政大学通信教育部講師

2.7 1969.4 お茶の水女子大学文・教育学部附属高等学校教諭兼務(地学・理科)

2.8 1971.2 (株)地域開発コンサルタンツ主任技師、技術専門員

2.9 1973.9 (学)桜蔭学園教諭(社会科)

2.10 2002.3 同 定年により退職(評議員)

2.11 1972.12 測量士(編集 図化主題/主題図を作成する業務)登録

2.12 1974.4 技術士(応用理学部門/写真地理)登録

3. 主たる業務

3.1 空中写真(1:40,000～10,000)の判読及び現地調査・文献調査により、土地利用図・土地条件図等、主題図(基図は2.5万分の1、5万分の1地形図)を作成し、それらに関する説明書(国土地理院の調査報告書等)を執筆した。

3.2 この他、主題としては植生(緑地分布図)、海洋生物、鳥獣(保護区)があり、部外秘のものなど様々で、対象地域は国内(北海道を除く)である。

これらの特殊図は地域開発計画の基礎として各地域で活用されている。

4. 主たる公職

私は主体的に公益活動を取組み、計画的、継続的に問題解決に努め、以下の公職に携わっています。

4.1 2005～2009 文部科学省科学技術・学術審議会 技術士分科会 臨時委員

4.2 2006～2010 (社)大学婦人協会理事(2期・4年)

4.3 2007～ (財)全国建設研修センター理事

その他

- 4.3 2002.4～2006.3 お茶の水地理学会会長
元女性技術士会の会・初代会長
- 4.4 2010.4～2012.3 (社)桜蔭会東京支部長
(公社)土木学会土木技術映像委員会顧問
(公社)日本技術士会名誉会員
- 4.5 2016.10～ 明治大学技術士会会長

5.1 執筆活動

私は教育、地理、測量、地球環境、女性問題、コンサルティングなどに関するテーマを中心に、新聞、雑誌、専門誌等、様々な媒体で執筆活動を行っています。

主な執筆活動での記事を以下に紹介します。

- 5.1 地球環境研究調査報告書(第三期) 日本技術士会
- 5.2 建設省国土総合開発調査報告書
- 5.3 お茶の水女子大学紀要
- 5.4 地理学評論 日本地理学会
- 5.5 JAUW(大学婦人協会)の全国セミナー(ワーク・ライフ・バランスの実践 他)
- 5.6 お茶の水地理学会会誌・会報
- 5.7 月刊「技術士」(社)日本技術士
- 5.8 日本技術士会六十周年記念誌

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事長(総務)^{ふじたかずお}藤田和夫(電気電子)

(株)岩崎 技術顧問



1. はじめに (Prologue)

明大技術士会が2016年10月22日に発足し東山会長指導のもと、幹事8名が協力して本年度の活動計画である紫紺 Net 発信、ホームページ開設、情報誌の発行、講演会の開催等に取り組んでいます。限られた期間にいかにか充実した成果を上げるかが問われていると思います。

明大技術士会の設立時の目標は①会員の資質向上及びCPD等による自己研鑽②大学、理工学部・農学部と協力する産学連携③明大のJABEE認定プログラム支援④国内、海外との技術交流の4項目を活動の目標指針として掲げました。

これらの目標達成には以下の施策が必要でないかと考えています。

1.1 会員の資質向上及びCPD等による自己研鑽

理工学部の先生や外部から講師を招き講演会を開催し会員の情報交換・交流を深めると共に異業種間のNetworkを構築し自己研鑽を図る。

1.2 大学、理工学部・農学部と協力する産学連携

大学に講師派遣し就業活動の支援や技術者倫理等の講座開設を考えています。このためには会員が大学の先生方との信頼関係を築き積極的に大学の行事に参加し継続的な支援活動することが肝要だと思います。また明治大学交流会や明治大学士業会との連携した共同事業を模索したいと思います。

1.3 明大のJABEE認定プログラム支援

明治大学は理工学部・建築学科、理工学部・機械工学科、農学部・農学科がJABEE(日本技術者教育認定機構)からの認定を受けています。JABEE認定した学生を技術士が技術士二次試験の合格を支援することは国家事業や国際的な活動を広げる上で有効で重要な課題と考えています。

1.4 国内、海外との技術交流

明治大学はグローバル人材育成推進事業を進めています。国家資格の技術士は国内の専門家としての技術士との役割だけでなく、海外の技術者と情報交換・技術交流を行ない国際的に技術の普及・発展に努めビジネス展開を支援し、海外でも活躍することが不可欠です。本活動を大学と共同して推進し支援したいと考えています。

1.5 なお明大技術士会の目標達成には以下の方案を考えています。産学連携を進め明大理工学部、農学部先生方と交流を深め親しくなり明大理工学部の研究成果を社会に広める役割を担う。総合大学の強みを生かし明大交流会・士業会と連携し勉強会、や必用な技術・情報を活用し先生方と共に外部企業との共同研究開発に尽力出来れば先生方の信頼関係も深まり明大技術士会も発展させる。今後の明大技術士会10年計画では前期は大学に苗床を根付かせる期間、中期は大学で技術士を知ってもらう認知期間、後期は明大技術士会と大学が協業で発展する事を念願しています。

2. 自己紹介 (Self-introduction)

筆者、藤田和夫の簡単な自己紹介を以下にします。

- 2.1 住所 : 〒270-2252 松戸市千駄堀 1450
- 2.2 誕生 : 1944年8月27

- 2.3 出身地 : 富山県滑川市清水町 10-5
- 2.4 職業 : 技術コンサルタント・エンジニアリング (電気・電子)
- 2.5 好きな食べ物 : 漬物以外、食べられるものならなんでも
- 2.6 趣味 : 旅行、登山、自然観察、魚釣り、テニス
- 2.7 人生のモットー : 何事も一生懸命に！ 健康で明るく楽しく過ごす。

3. 専門分野 (Specialized field)

私の専門分野は電力管理・電気設備・エネルギーで以下の事項があります。

- 3.1 発電設備、受変電設備の新設・更新工事の設計、施工
- 3.2 送配電機器, 開閉保護装置, 変電機器, 送配電線・電力ケーブルの設計・施工
- 3.3 電力系統監視・制御システムの設計、施工、改修
- 3.4 系統保護継電装置、通信設備・遠方監視制御装置の設計、施工
- 3.5 電気設備・計測制御設備の設計・施工・診断、メンテナンス
- 3.6 太陽光発電・風力発電・バイオ発電の設計、施工、メンテナンス
- 3.7 プラント設備、水処理設備、廃棄物処理設備の設計、施工, メンテナンス
- 3.8 火災報知設備など消防設備の設計・施工・メンテナンス
- 3.9 電気・熱エネルギーの省エネルギー診断

私の強みは論理的思考と行動・実行力です。それは国内外での調査、設計開発、分析、監理、試運転等の実務経験によるコンサルタント・エンジニアリング業務を約 50 年間培った応用力のある技能・技術です。

コンサルタント業務はゴールがあってもそこまでの明確な道筋が決まっていません。自分で論理的に仮定を立て、それに基づいて行動し、間違っていたら原因を追究してやり直す。

私が重要視しているのは“単なる提案”や“報告書の提出”をではなく、現地での調査を入念に行い疑問点や不明点等を現地の技術者と同じ目線に立ち、気持ちを汲み取り、意見交換しながら改善提案し納得の行く事業を進めることです。

その結果、会社と会社の付き合いの他、個人名での指名が増えてきました。

今後は培った経験を活かし、より幅広い顧客に対してコンサルティングを提供できる事を継続したいと考えています。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(総務) おおさき えいいち 大崎 榮一(電気電子)

(株)電力機材サービス 顧問



1. はじめに

明治大学技術士会設立に対する発起人の熱意にほだされ、2回目の会員名簿調査からご一緒させていただき、入会案内や名簿整理の関係で皆さまにはメールで何度もお目にかかりました。技術士資格を取得した当時は、ユーザ企業に勤めていたため活用する機会はありませんでした、コンサル会社に転職してからも受託業務で監理技術者や照査技術者を務めたことが数件あるのみです。日本技術士会の活動では、2011～13年に電気電子部会の電力エネルギー構想会議の委員として、①電力エネルギー・ベストミックス、②原子力施設等の電源確保、③省エネ対策の纏めに参画しました。

2. 自己紹介

- 2.1 住所 : 東京都葛飾区亀有 (こち亀の舞台)
- 2.2 誕生 : 1950年3月
- 2.3 出生地 : 茨城県牛堀町 (合併で潮来市、葛飾北斎の富嶽三十六景に常州牛堀の版画)
- 2.4 職業 : 送電線工事機材リース会社の非常勤顧問、大学の非常勤講師
- 2.5 好きな食べ物 : 酒、煎餅、フルーツ、その他甘辛なんでも大丈夫
- 2.6 趣味 : パソコン (昔はカメラ=現場写真、根っからの仕事人間)、車の運転
- 2.7 人生のモットー : 常に最善を尽くす

3. 専門分野

大学を卒業して東京電力に入社し、現場で送電線工事設計の経験を積んだ後、次期送電電圧 (UHV) 送電の技術開発・工事管理・保守業務と一貫して UHV 送電の仕事に従事しました。

当時は電力需要の伸びが著しく早期に送電能力の向上が必要とされており、現在とは大違いの古き良き時代でした。

合理的な絶縁レベル決定のため BPA (米国ボンネビル電力庁) から世界的なスタンダードプログラムである EMTP (過渡現象解析プログラム) を導入し、電力系統のサージ解析に明け暮れました。

また、UHV 送電特別委員会や電気学会の絶縁関係の委員会・作業会に参加し専門知識を深めることが出来ました。

電気学会の B2 (電力・エネルギー) 部門の論文査読委員会に所属し、幹事、副主査、主査を務めました。専門分野は送配電、電力系統のサージ解析、絶縁設計、耐雷設計ですが、近年この分野の論文が少ないため査読依頼はめったに来ません。

若い時は、会社ではスペシャリストとして生きてきましたが、40代になってからはゼネラリストを求められ、自分で解析し技術資料を纏めることはなくなっていました。東電設計を 2013 年に定年退職したことを機に、昔のめり込んだ EMTP を再開しました。

きっかけはなんといっても、以前は大型計算機でしか動かせなかったものが、近年はパソコンで動かせるようになった ATP-EMTP (EMTP のパソコン版) との出会いが大きいです。

2015 年度は架空ケーブルの耐雷対策、2016 年度は 500kV 送電線工事中の誘導電流解析の委託を東京電力から受け、成果品を通じて後輩に技術移転していこうと考えています。

慣れない講師を引き受け、東京都市大学（旧武蔵工業大学）で送電工学の非常勤講師として3年目の秋が来ます。

昨年度、毎回プリントを作って計算演習をさせた効果は如何か、学生の負担を増やただけか（教師の負担は更に増えた）と気にしていましたが、授業改善アンケートで「毎回プリントが効果的」と書いた学生がいて少し救われました。

今年も頑張って授業に取り組もうという気にさせてくれます。

今後も、皆さまには明治大学技術士会の案内メールを度々お送りさせていただきます。是非、総会・講演会にご参加ください。宜しく願いいたします。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(会計) くぼくら たかし
窪倉 隆 (建設)



1. はじめに

私はすでに定年を過ぎ、企業組織の仕事から離れ、現在は自由な立場にいます。会社に勤めていた頃の仕事内容が、設計・積算・現場管理の技術支援が中心業務であり、その仕事内容が技術士の技術部門・選択科目の試験内容と一致しており、会社から援助を受けられる事もあり受験を思い立ち、数年間勉強の後15年前に技術士となりました。

現在、技術士の資格は、他の資格に比べ、社会的に認知度はそれほど高くなく、経済的にもあまりメリットがあると思われてはいませんが、私個人としては体験論文・一般論文の作成など試験勉強での検討・推敲などにより培われた経験がその後の仕事の進め方、取り組み方を変えるきっかけとなりました。

昭和から平成初期までは年功序列・終身雇用などの制度に伴い企業が社員教育を積極的に行い技術伝承に努め、仕事の品質・信頼性を維持してきました。

しかしグローバル化が進み、経済環境が悪化すると企業にその余裕が無くなり、仕事の品質・信頼性を維持し高めるために、個人のつながりを拠り所とする技術の伝承が求められています。

このような時に発足した明大技術士会は、経験豊富な個人が集まりコミュニティを作り、そのコミュニティによる研鑽が、これからの技術士の社会的な地位を向上させ、活躍する場を広げるための布石の一つになっていくと思います。

2. 自己紹介

- 2.1 住 所 : 神奈川県横浜市港北区
- 2.2 誕 生 : 1950年7月
- 2.3 出 身 地 : 神奈川県横浜市港北区
- 2.4 好きな食べ物 : 畑で熟したトマト、戻りカツオ
- 2.5 趣 味 : 読書、音楽鑑賞、水泳、ジョギング(たまに大会参加)
- 2.6 人生のモットー : 「今、ここ」を生きる

3. 専門分野

私の専門分野は、総合建設会社での構造、地盤、施工をキーワードとする業務で、具体的には以下のとおりです。

- 3.1 企画、受注段階 : 建設地の敷地調査(道路条件、地盤状況などの事前調査)
調査結果に基づく基本計画(基礎地業計画、施工法の計画)
- 3.2 計画、設計段階 : 建物基礎の検討(地盤の評価、基礎地業の設計および工法計画)
地下工事の検討(地下工事の工法計画、施工計画)
- 3.3 施工段階 : 基礎の設計監理(建物支持地盤の確認、工法の妥当性確認)
地下工事の管理(山留工事の安全管理・工程管理・コスト管理)

特に地盤に係る設計から施工において、要求品質を確保し、経済性を高め、安全性を維持するためには多くの実績・豊富な経験・慎重なリスク対応が必要となります。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(会計)^{おおくぼ としかず}大久保 暁一(電気電子)

(株) 関電工



1. はじめに

1993年に明治大学工学部電気工学科を卒業し、株式会社関電工という会社に入社しました。はじめの所属は神奈川支店で、以来18年間、建築電気設備工事の施工管理に携わりました。2011年に技術開発部門に異動となり、組織の改正等もあって現在は技術研究所所属で研究開発を担当しております。

なお1993年卒からは理工学部のはずですが、私は5年間勉強させて頂いたため、工学部の卒業です。技術士は2009年度に2回目の受験で合格しました。当時は会社が合格者を増やすために取組みを強化し始めた時期と重なり、会社の後押しで取得することができました。

明大技術士会の幹事の皆様は初めてお目に掛かる方ばかりですが、この度ふとしたご縁から会計を仰せつかることとなりました。今後とも宜しくお願い致します。

2. 自己紹介

- 2.1 住所 : 神奈川県横浜市
- 2.2 生年月日 : 1968年8月26日
- 2.3 出身 : 父の転勤中に大阪の病院で生まれましたが、半年後に地元横浜に戻りました。
出身地、出生地などを聞かれると、説明に悩むところです。
- 2.4 職業 : 電気工事会社で研究開発職に従事
- 2.5 好きな食べ物 : 麺類、特にそば
そばは庶民の食べ物、味も勿論ですが、値段が手頃で量が多い店が好み。横浜なら味奈登庵あるいは社の斜向かいの角平、長野の草笛、草津の三國家・・・他に良い店をご存じでしたら、お教え下さい。
- 2.6 趣味 : 大学では体同連でスキーをやりましたが、最近は無沙汰しています。他はスポーツ観戦で母校なら野球、ラグビー、地元横浜ベイスターズの応援など。
- 2.7 人生のモットー : 特に有りません。

3. 専門分野

入社以来、建築電気設備工事の施工管理職として事務所ビル、研究所、病院、商業施設、共同住宅などの新築、改修工事を担当してきました。2005年には百貨店建て替え工事の応援要員で半年間大阪に赴任、梅田の駅前での昼夜工事でした。技術開発部門の所属となつてからは設備診断、施工の効率化など、建築電気設備関連の業務、および知的財産管理を担当しています。

主な保有資格は技術士(電気電子)の他、第3種電気主任技術者、1級電気工事施工管理技士、第1種電気工事士、甲種4類消防設備士、2級知的財産管理技能士などです。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(渉外・広報・企画) ^{みやた しげかず} 宮田 滋一(電気電子)

宮田電気管理事務所



1. はじめに

私は現在技術士としての仕事はしていないが、日本では技術士の地位(収入面に於いて)は低い。昔マレーシアで、工事出張で滞在したことがあるが、日本の技術士に当たるのがPE(プロフェッショナル・エンジニア)とあって、全ての電気設備設計図に役所、民間を問わずPEのサインが無ければ公式設計図として正式にならない。

故に電気工事会社は必ずPEを雇うことになる。他の業種の事は良く知らないが同じような環境だと思う。日本の場合は技術士資格取得に関して企業が深く関与していて、個人として技術士としての能力を発揮できるような法的根拠と環境というものが極めて少ない。企業のステータス化しているのが現状であろう。このような技術士としての社会的な地位向上に対しては、我々技術士の責任は重大であり、その地位を向上させることは我々の現役技術士の責務であると考えている。

2. 自己紹介

- 2.1 住所 : 埼玉県新座市道場。
- 2.2 誕生 : 1946年6月の戦後生まれ。
- 2.3 出身地 : 北海道の極寒の地。(最低記録41.2℃)
- 2.4 職業 : 電気保安管理受託。
- 2.5 好きな食べ物 : 酒、肉、麺類。
- 2.6 趣味 : 数独で現在中級クラス、分子生物学、宇宙、数学、真空。
- 2.7 人生のモットー : 死ぬ時はコロット逝く。
- 2.8 ボランティア : 現在市のボランティア5分野に渡って行っている。
- 2.9 特技 : 難しいことを易しく人に教える事。世の中の嘘を暴くこと。

3. 専門分野

大学を卒業して電気工事会社に入社し、3年間の実習を得て、そのまま海外配属となった。通常の社員は会社で積算、設計、施工と配属が分かれているが、海外工事に於いては国内から独自した組織となっていた為、自分で積算受注し、設計し、施工の繰り返しを行った。

海外での主な工事としてマレーシア国際空港電気工事。タイ国際空港電気工事。アサハントンガ水力発電所(88MVA×4基発電機・据え付け・組み立て、275KV開閉所、275KV0Fケーブル)。ボロボドール・プランバナ(電気・空調、給排水工事)。住友ベークライトインドネシアプラント建設工事。アブダビ送水プラント。台湾新幹線駅舎電気設計を行ない60歳で定年退職し現在に至る。

昔の言い方でいうと専門分野は強電である。仕事は主任技術者の外部委託業務をメインにしている。その他雑誌電設技術で1級電気工事施工管理技術検定試験の解答を5人で解答講座を分担して寄稿している。又ビックサイトでの見聞録を年4回程度の頻度で寄稿している。

過去には電検3種の受験講座をしていた。

取得資格は第2種電気主任技術者、エネルギー管理士、自家発電設備専門技術者、太陽光発電アドバイザー、太陽光メンテナンス技師、1級電気工事施工管理技士、第1種電気工事、環境プランナー・ベージック、eco検定、パソコンインストラクター、美味安全野菜栽培士である。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(渉外・広報・企画) おけや ゆたか 桶谷 裕 (電気電子)

(株) 山下設計



1. 初めに

技術士試験に合格後、藤田技術士から明治大学技術士会設立のお話を伺いました。まだ漠然とした内容でしたが、今日に至り現実になりました。あつという間の出来事のような感じがありますが、これからが本番であると認識しています。私が本会に期待していることは、人脈を使った「人財育成」です。色々な専門分野の技術士が集り、年齢も区々な方々の集団である本会の目的は、技術士としての自覚をもって日本の産業に寄与出来る人財を育てることにあると考えているからです。

2. 自己紹介

1952年北海道室蘭市生まれ、高校まで室蘭で育ちました。明治大学を卒業後、建築付帯設備の設計事務所に約10年間勤めました。そこでは各種建物の電気設備設計を行い、有名建築家事務所等の建物に関わることが出来ました。その後、設計事務所を退社してからは個人事業主として、山下設計等の設計事務所から業務委託を受けて電気設備の設計、監理業務を行ってきました。現在は業種を少々変えてCM(コンストラクション・マネージャー)業務を昨年暮れより始めました。PE業務に似た形態ですが、日本では認知度が低い業務です。しかし東京オリンピックを控え、今後は必要になってくる業務であり認知度も高まってくる業種だと思います。取得資格は技術士以外では第2種及び第3種電気主任技術者、太陽光発電アドバイザー、それから技術経営修士(専門職)です。

3. 専門分野

電気設備の設計、積算及びその監理業務を専門にしてきました。内容は建築物に付帯する各種の所謂強電、弱電及び防災の各種設備の設計を専門にしています。電力会社から電気の供給を受けてから、建物内部の電気設備設置とそれに至る電源供給と制御まで、末端に至るまでの電気に関する事項全てに関わる内容です。建物も電気が無ければただのコンクリートの塊になるとの思いがあります。3年程前からは、専門知識を活かして技術アドバイザーを始めましたが、「専門バカ」では仕事にならないことを実感しました。そこで、社会人向けの大学院へ入学して技術経営学(M.O.T)を学ぶことにしました。1週間に1度の徹夜レポート書きに耐えて卒業できたことで、技術だけでなく経営、営業的な感覚の重要性に気づきました。これからは技術+経営センスを加味したアドバイザー業務が必要になることと考えて、今迄の専門分野からは上流域にあるCM業務を開始しました。プロジェクトをマネジメントする業務であり、技術士本来の業務になると考えています。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(渉外・広報・企画) おだ やすお 小田 康雄 (電気電子)

(株) ワコム



1. はじめに (Prologue)

藤田幹事長がはじめられ、そして東山会長の指導のもとに明治大学技術士会を2016年10月22日に発足させることができましたことは本当に喜ばしいことと思います。

私は、現在コンピュータ周辺機器の開発メーカーに勤めてコアテクノロジー開発に従事しており、技術開発とそれにかかわるエンジニアの技術指導にあたっております。

しかし、技術士として、社内だけにとどまることなく外に向けて活動を広めていきたいと考えており、今後は明治大学技術士会を通して、大学と連携がとれて共同で発展していける活動ができればと考えております。

2. 自己紹介 (Self-introduction)

筆者、小田康雄の簡単な自己紹介を以下にします。

- 2.1 住 所 : 〒346-0004 埼玉県久喜市南3丁目9番21号
- 2.2 誕生日 : 1958年6月25日
- 2.3 出身地 : 北海道芦別市上芦別町371番地
- 2.4 職 業 : 会社員、主に電子回路設計、アナログIC設計・開発
- 2.5 趣 味 : スキー, カメラ, 計算尺, オーディオアンプ設計
- 2.6 好きな食べ物 : メロン
- 2.7 人生のモットー : 何事もあきらめず、いつも希望と思いやりを持ち続ける。

3. 専門分野 (Specialized field)

私の専門分野は電子回路設計で主にアナログ回路・アナログIC設計。

- 3.1 エアーシリンダの位置決め制御装置の設計・開発
- 3.2 ICの自動組み立て装置の一つであるダイボンディング装置の設計・開発
- 3.3 ICの自動組み立て装置の一部である画像認識装置の設計・開発
- 3.4 つくば万国博覧会展示用似顔絵描画装置の設計・開発
- 3.5 パソコン用入力機器である電磁誘導式ペン入力デジタルタイザの設計・開発
- 3.6 同電磁誘導型ペン入力デジタルタイザ用アナログICの設計・開発およびその技術指導
- 3.7 パソコン・タブレット等入力機器である静電式マルチタッチシステムの設計・開発
- 3.8 同静電式マルチタッチシステム用アナログICの設計・開発およびその技術指導
- 3.9 各種電源回路設計やスイッチング電源用トランスの設計およびその設計指導
- 3.10 PC用CFL管式バックライトインバータの設計およびその技術指導
- 3.11 各EMC対策およびその対策技術指導

私の強みは、設計手法を理論的に理解して実証を取りながら設計していける能力です。

特に、新し技術を構築するにあたっては同様手順にて推進していくことができます。

コアテクノロジー開発がメインで、新規なセンシング技術開発業務に恵まれました。

例えば、静電式マルチタッチのセンシング技術開発においては、静電式タッチ検出の仕組みを徹底的に測定して適切な等価モデルを作り上げてから、検出のあり方とは何かという観点で

方式を組み立てて、実装方法まで組み上げていく手法を取ってきました。

また、35年以上の設計キャリアをもつアナログエンジニアでもあります。ディスクリート部品による回路設計は勿論ですが、IC内トランジスタレベルでの設計も行えるので、社内外を問わず設計提案および設計指導を行ってきています。

私が重要視していることは、理論を理解するだけにとどめることなく、その理解した理論はどのように活用されるべきか、そして取り扱う開発対象に対してどう扱われるべきかという観点です。

例えば、対数の加減算計算を応用してできた計算尺は、単純な計算式を活用しているだけで、多大な科学計算をこなしてきました。

これは利用者を感動させる技術開発であったと思っています。

今後は、自分のキャリアを活かしつつ、利用者に感動を与えることができる技術開発、そして、それを目指していく技術者を養成する仕事をしていきたいと考えています。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会幹事(渉外・広報・企画) ^{さかい かずよし} 酒井 重嘉 (電気電子)

(株) 関電工



1. はじめに

電気設備工事会社において設計施工管理を経験したのち、現在は工事管理部門において現場で起こる様々なトラブル解決を業務としております。

日々、いろいろな問合せをうけるたび、自分の知識の少なさを痛感させられます。

どうしてもものめり込む性分のため、一つの事例の解決策を導くまでに時間がかかり、現場担当者を困らせてしまいます。

しかしながらこの業務を通して得られた全国(全世界)各地の担当者とのつながりはなにものにも代えがたいものです。

いざなにかあった際、真っ先に連絡をいただいたときはうれしい気持ちになってしまいます。

現在は、これまで得た経験を伝えることで、私自身の新たなステージにチャレンジする土台作りをしているところです。

休日は心身を鍛えるため、山に入りランニングやソロキャンプをします。一人、深淵とした森を走り、また夜の暗闇に一人いると、自分の弱さに改めて気づかされますが、リフレッシュできます。

最近では月1ペースでレースに参加し、より長距離に挑戦したりこれまで歩いていた登りを走ることができたり、レースマネジメントがうまくいったり、成長している自分を感じられる瞬間がなによりも楽しみです。

2. 自己紹介

2.1 住 所 : 神奈川県茅ヶ崎市

2.2 誕 生 : 1968年1月

2.3 出 身 地 : 富山県中新川郡上市町

2.4 好きな食べ物 : タイの昆布締め(日本酒によく合います。)

2.5 趣 味 : ランニング, スキー

2.6 人生のモットー : V.S.O.P(Vitality Speciality Originality Power)

大学時代恩師の言葉です。

3. 専門分野

3.1 ビル・工場などの EMC 設計

雷・ノイズ・高調波被害の原因究明や対策設計が得意です。

雷・ノイズにおいて接地設備は重要で、接地抵抗値だけでなく構成や配線ルートを考慮しなければなりません、コストとの兼ね合いも重要です。

3.2 電気設備の事故解析

電気設備の事故は、短絡や地絡だけでなく開閉サージや瞬低など様々な要因が考えられます。

これらは事故点やその周辺の詳細観察が重要ですが、観察ポイントや要因の見極めが得意です。

以上

自己紹介と専門分野

明大技術士会監事 ありさわ りょういち 有澤 良一 (機械)

(株) 有澤技術



1. はじめに (Prologue)

藤田さんをはじめ、幹事の皆様方の並々ならぬ努力の基に明大技術士会が2016年10月22日に発足し、東山会長指導のもと新しく旅立つことができましたことは誠に喜ばしいことと思います。

設立に尽力を尽くされました皆様方に改めて感謝申し上げます。

私は富山県に在住しており、一昨年まではなかなか東京での会合、講演会には参加できませんでしたが、北陸新幹線が平成26年3月に開通して以来、2時間15分で東京に行けるような便利な時代になりました。

これからは極力、会合や講演会に参加させていただきまして、明大技術士会の発展に協力させて頂きたいと思っております。

技術士の資格は他の資格と違い、産業経済や社会生活における科学技術に関する全ての分野(電気、機械、建設など21技術部門)をカバーし、先進的な技術活動から身近な生活分野まで関わっている特徴があります。

このような幅広い分野の専門技術者集団ですが、一般の方々に対する知名度が低く、技術者間の繋がりも比較的疎遠であるといわれております。

また、変化の激しい社会に対応するため、産学官共同や異業種間交流を積極的に行い、幅広い分野の人脈形成を通じて地域社会、ひいては国際社会への貢献に寄与することが重要であると考えられます。

これらの問題点を解決するため、北陸地方(富山県、石川県、福井県の3県)でも、3県の技術士、技術士補で構成する会員600名を有する「北陸技術士懇談会(設立50年)」という任意団体が活動しております。

私は、現在、本会の会長を仰せつかり4年目になります。明大技術士会も、このような問題点を解決する重要な受け皿になること期待しています。

今後は、主に明大技術士会の目標である、②OBの就職先企業と理工学部・農学部等と連携する産学間交流 ③JABEE認定プログラムの支援及び技術士の資格取得支援に力を入れさせて頂きたいと思っております。(現在、富山大学工学部、富山工業高等専門学校でセミナー実施中)

2. 自己紹介 (Self-introduction)

- 2.1 住 所 : 〒939-0122 富山県高岡市福岡町一步二歩451
- 2.2 生年月日 : 1947年5月14日
- 2.3 勤務先 : 株式会社アリサワ技術 代表取締役社長(平成8年10月設立)
- 2.4 主な職種 : 総合建設コンサルタント(土木、建築関係)
- 2.5 好きな食べ物 : ミョウガ、パセリなど匂いの強い野菜、果物
- 2.6 趣 味 : 溪流歩き、ゴルフ
- 2.7 好きな格言 : 三味の境地

3. 専門分野 (Specialized field)

専門分野は公共工事や開発行為に伴う河川・砂防関連の調査・計画・設計業務及び施工管理、積算業

務です。

以下に、手掛けている業務概要を記載いたします。

3.1 河川、砂防、海岸の調査、設計業務

河川構造物（樋門、樋管、排水機場）計画、設計、砂防施設の計画、設計

3.2 施工管理部門

施工開始時点での設計、施工現場で発生する様々のトラブルについて現場に足を運び迅速に解決を図る、環境に配慮した施工計画の提案など

3.3 最終埋立て処分場（安定型、管理型）の調査、設計、施工管理業務

3.4 I S O / J G A P 認証支援コンサルティング

ISO9001、ISO14001、JGAP 等の認証支援コンサルティング

3.5 異業種の技術士や他の資格を有する仲間とネットワーク「Vネットシステムズ」を構成し、様々の分野の業務が消化できるよう協力会社、協力技術者とネットワークを組み、顧客の要望に応えられるよう体制を整備しております。

私の強みは、内業と外業双方の経験を活かして、現地に適合した技術提案や設計を行うことです。約45年間、北海道を除く日本全国の現地を視察調査した経験やノウハウを活かし、現地に見合った施設の計画、設計を行うことができます。

近年は、長年蓄積した経験を活かして、現場や設計上のトラブルが発生する恐れがある業務を積極的に受注し、対応しております。

特に、単なる机上での提案ではなく、入念に現地調査を行い疑問点、及び不明点等を洗い出した上で、客先要求事項を明確に把握し、最善策を提案し、納得のいく計画・設計を進めて行くことをモットーにしております。

「現場を歩けなくなったら（現場調査をできなくなったら）、仕事を辞める」という決意のもと1年1年仕事を続けております。

現場を歩ける限り、長年培った経験を活かし、幅広い顧客に対してコンサルティングを提供できるよう努力していきたいと思っております。

なにとぞ、よろしくお願いいたします。

以上